

とちのき便り

令和8年度 第3号

発行：亀山東小学校学校運営協議会事務局

第3回 9/3

学校運営協議会

夏休みを終え子どもたちにとって楽しみな行事の多い2学期が始まりました。この夏、地域の企業とNPO法人どんぐりの会のご協力により「飛び出し坊や」の看板を5つ設置していただきました。2学期は児童が地域へ出かけて学ぶ活動も多く計画されています。今後ともみなさまのご協力をよろしくお願いします。



◎主な協議内容

亀山東小学校の児童、教育や地域について意見交換を行いました、

- ・地域で子どもを見守り育てていくことの難しさについて話題となりました。コロナ禍以降、地域の中でつながりが全体的に弱まり、児童の地域行事への参加の減少や保護者間のつながりが薄まっているなどの意見がありました。児童のつながりを育てる学校で、保護者間のつながりも大切にする行事などが必要ではないかという話が出ました。スポーツデイで親子競技など参加型の種目を取り入れるアイデアなどが出されました。
- ・亀山東小学校の特色について話題となりました。亀山東小学校の近隣には高校と幼稚園があり“学園都市”のような教育環境であることが大きな特色ではないかと話がありました。現在、亀山高校と4, 5, 6年生で学習交流を行っています。また、1, 5年生では亀山東幼稚園、第2愛護園、愛児園と交流しています。高校生からプログラミングを学ぶ活動や、自分の将来について考える機会を高校生の話から学ぶ活動などを取り入れています。今後、学校と園との協力により教育に縦のつながりを深めていくことが大事であると話されました。
- ・環境整備について話題となりました。地域に広くボランティアを呼びかけることが話されました。さまざまな分野の専門家を招き児童の学習を深める教育が進められており、環境整備においても地域に呼びかけることでボランティアの協力が得られるのではないかと意見がありました。亀山東小学校には、特色の一つである自然環境豊かな陰涼寺山が敷地内にあり多くの木々が茂っています。かなり大きくなり古木も多いため整備を進めていくことが肝要となっています。
- ・児童の教育環境の変化について話題となりました。児童が外で遊ぶ機会が減る一方、スマホやゲームなど情報機器を使って過ごす時間がかなり多くなっていることから、児童同士のつながりや生活習慣や遊びの変化について話されました。児童のSNSの知識や利用も多くなり大人の目が及ばなくなっていることや、学習への影響を心配する意見がありました。また、家庭環境の多様化についても意見が出され、今後さらに検討をしていくべき内容が多くありました。
- ・児童への接し方について話題となりました。社会規範を学んでいく子どもに対しどのように伝えていくかが話されました。間違った考えやふるまいに対して“怒る”ではなく“注意する”という形で大人が接していくことが大事であると意見が出されました。
- ・話題の中で“高校生”という言葉が多く出ました。地域行事に参加協力をする生徒、児童と一緒に登校する亀山高校の生徒、PTA奉仕活動に参加協力する生徒などさまざまな話題の中で出ました。地域の中で高校生の活躍する機会を作っていくことも今後の地域あり方につながるのではという意見がありました。また、学校運営に高校生の意見を反映させていくことなどの提案がありました。